

HIO YOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

2011. 4 170号



ボランティアとのミーティングの様子(仙台別院)

被災地支援に向けて 仙台・相馬、現地視察

四月六日〜九日、教務所職員ら四名からなる「教区災害対策委員会現地調査チーム」による、東日本大震災被災地現地視察が行われた。

調査チームは、六日の二十三時に神戸別院を出発。北陸道、新潟経由にて磐越道を通り、七日正午、約十二時間をかけ福島に入り、現地での聞き

取り調査や、持参した支援物資(生活日用品等)の受け渡しなどを行った。最初の目的地である相馬市の光善寺(相馬組)では、被災した四ヶ寺の

話を聞かせていただいた。光善寺住職は、今回のような調査は初めて受けたと話し、地震発生から現在までのこと等を生々しく語り、どれだけ話し

ても言い足りないといった印象を受けた。続いて、飯館村の淨観寺(相馬組)にて聞き取り調査を行った後、仙台別院へ移動、情報収集、ボランティアミーティング等を行い、仙台市ボランティアセンターで、支援物資の運搬を行った。

仙台へは、海岸側被災地を通つての移動となったが、テレビ画面や新聞では写しきれない被災地の姿、視野の全て、三六〇度が瓦礫であるという凄まじい光景が広がっていた。

また、仙台別院宿泊の七日夜には震度六強の余震があり、現在も収まらない地震の恐怖を身をもって知らされた。

その後、八日朝に仙台別院を出発した一行は、南相馬市へと向かい、南相馬支援センターにて支援物資の受け渡しを行い、被曝検査を受けた後、相馬市・名取市の遺体安置所二カ所にて読経。八日夕方に仙台を出発、帰路についた。

【二面へ続く】

神姫組 常徳寺 森川晋兼

教区だより 5月・6月

5月	7(土) 第1土曜仏教講座(別所法宣師 神戸湊組)	13:30	27(金) 門推幹事会	10:30
	8(日) 中仏集い会		神戸真宗連盟	12:00
	10(火) 清風会雅楽練習	19:00		
	12(木) 門推常任幹事会	13:30	6月	
	15(日) 神戸別院降誕会法要(大西宝雲師 六栗組)	13:30	1(水) 矯正教化全国大会(2日まで)	本願寺
			4(土) 第1土曜仏教講座(藤井寿昭師 仏教青年連盟指導講師)	13:30
			7(火) 布教団総会並びに研修会	10:30
16(月)	常例法座(大西宝雲師 六栗組)	13:30	別院仏婦定例法座(棚原正智師 神姫組)	13:30
	仏婦第14回世界仏教婦人会大会(17日まで) 本山		9(木) 親鸞聖人750回大遠忌記念	
	聖典研鑽会 勉強会	9:30	「少年教化指導者のつどい」	本山
17(火)	少年連盟総会	15:30	12(日) 中仏集い会	10:00
18(水)	布教団役員会	13:30	15(水) 神戸別院永代経法要	
	門徒総代会評議員総会	10:30	(若林真人師 大阪教区 16日まで)	本堂
	青年会総会	14:00	第16期連研修了者大会	全館
	神戸真宗連盟	12:00	21(火) 近同推 総会	本願寺
20(金)	大遠忌法要(幼児を対象とした法要行事) 本山		21(木) 平成23年度兵庫教区仏教婦人会連盟大会	いたみホール
23(月)	連研部会	13:30	26(日) 門推総会並びに第51回研修会	10:30
24(火)	矯正教化連盟兵庫教区支部総会	15:00	28(月) 組長・副組長・組相談員等合同研修会(29日まで)	
25(水)	基推総会	10:30		ホテル日航姫路
26(木)	保育連盟総会	10:30	29(水) 第13回全国布教使大会(〜30日まで)	本山

帰敬式のご案内



別院での帰敬式の様子

今年の別院報恩講にて帰敬式を行いますのでご案内致します。日時/二〇一一年十一月二十八日(月)午後四時三十分
◆会場/神戸別院◆集合時間/午後三時三十分
◆受式冥加金/成人:一万円、未成年:五千円(当日受付にて承ります)◆申込み方法/ファックス、封書、葉書にて、名前・住所・電話番号・生年月日・年齢・所属寺をお伝えください(本願寺ホームページの申込用紙でも可)

申込み頂けます)◆内願法名希望者/別院又は所属寺までご連絡ください(申込締切/八月末日)所定の冥加金に加え、一万円以上のご懇志が必要となります※内願:基本的に法名に希望の文字を願い出ることが出来ます◆申込み先/〒650〇〇〇一/神戸市中央区下山手通八〇一/神戸別院帰敬式係◆☎(〇七八)三四一五九四九/FAX(〇七八)三四一八五二六

ナモなもキャンパス開催
〜皆ではなまつり〜
四月五日、神戸東組照善寺(杉本正義住職)を会場に「ナモなもキャンパス(こどもの集い)神戸大会」(主催/教区少年連盟)が開催された。今回で五回目の開催となる本大会は、子ども会の運営・指導、キッズサングル開催等にむけての研修も兼ねて行われるもので、子ども、スタッフあわせて五十名近くの参加となった。



紙芝居の上演(照善寺本堂にて)

集った子ども達は、花御堂へ飾る花や、折り紙などを折って開式を待ち、式典では花御堂の誕生仏に甘茶を注いだ後、『真宗宗歌』を斉唱し、杉本住職が語る十六年前の震災の話などを静かに聞いていた。その後、スタッフによるお釈迦様誕生の紙芝居の上演や、おやつ休憩、お楽しみ会(ゲーム)があり、大人も混ざつての楽しい時間を過ごした。参加した子どもは、甘茶独特の渋みのある甘さに驚いた様子だった。東灘区から参加した角亮一郎くんは「家の近くにお寺が無いのではなまつりは初めて。楽しかった」と話した。

分煙となりました



分煙機を導入しました

敬 弔

健康増進法の趣旨理解、受動喫煙防止の観点から、四月一日より、別院・教務所内の公共スペースが禁煙となりました。喫煙の際は所定の喫煙所にてお願い致します。

左記の方がご逝去されましたので謹んで敬弔の意を表します
仲邑依照(神戸東組眞照寺前住職) 平成二十三年三月二十一日九十歳
【敬称略】
四月八日現在



私たちが使っている言葉には意味深いものや、温かみ

のあるものが多い◆東北地方を襲つた地震と津波では多くの方がいのちを落とされたり、避難生活を余儀なくされている◆数年前、県内でも台風で大きな被害を受けた地域がある。私は微力ながらボランティアとして復興作業に参加した折り、作業を終えた私たちに、その地域の御住職は「皆様の御苦勞様をいただきました」という言葉を口にされた。他人がした苦勞に、「御」や「様」をつけて相手に感謝を述べるとはどういう事だろうか◆四月より親鸞聖人七五〇回大遠忌法要がお勤まりになつていらっしゃる◆私のいのちを支える為に数え切れない方々の働きや苦勞がある。また阿弥陀様や、親鸞聖人が私のためにしてくださつた働きや苦勞を、「御苦勞様をいただきました」と味わうことが「私の歩む道」であろうと思うのである。

被災地視察レポート



光善寺での聞き取り調査(近隣の4か寺)

三十km圏内は、自主避難なので、親類などの家に避難されていたが現在は帰ってこられていない。物資は十分にある。ガソリンも手に入るようになりスーパー、コンビニも営業するようになってきた。※四月十一日、政府発表で、計画避難地域に指定された。

【相馬組光慶寺】(原発二十km圏) ◆死者二名(現在把握人数) 行方不明者数は確認できない。◆四月九日から、遺体の収容がはじまる。南相馬市の死者数が三三七名から増えないのは、放射能汚染が懸念されるため捜索すらできなかったからである。門徒の安否確認のため、毎日避難所を回って確認しているような状況である。

【相馬組浄観寺】(原発三十km圏) ◆死者一名(現在把握人数) 行方不明者数は確認できない。◆福島原発一号機・三号機の事故により、風の影響で放射性物質が飛んできた。四百名以上が埼玉へ避難している。

【相馬組常福寺】(原発三十km圏) ◆死者、行方不明者数確認できない。◆南相馬市は、原発二十

【相馬組常福寺】(原発三十km圏) ◆死者、行方不明者数確認できない。◆南相馬市は、原発二十



コンビニ、飲食店、住宅、全てが流された(専念寺から海側の風景)

親戚の家に避難されていた方が戻ってこられていない。物資については、最近届くようになってきた。福島ナンバーの車で、避難のため茨城にいったところ旅館で宿泊拒否された方がいる。※四月十一日の政府発表で、計画避難地域に指定された。

【相馬組常福寺】(原発三十km圏) ◆死者、行方不明者数確認できない。◆南相馬市は、原発二十

現状の概要

M九・〇という極めて

平成23年度予算

～特別会計 大遠忌長期計画推進費は継続審議～

2011(平成23)年度 兵庫教区一般会計歳計予算

[歳入]

款項	費目	23年度予算額	22年度予算額	対比(△減)
1	賦課金	65,690,000	65,530,000	160,000
1	本年度賦課金	65,290,000	65,230,000	60,000
2	過年度賦課金	400,000	300,000	100,000
2	宗派交付金	31,923,000	38,779,000	△6,856,000
1	各種助成金	19,253,000	25,079,000	△5,826,000
2	地方事務費	12,670,000	13,700,000	△1,030,000
3	願記冥加金	5,500,000	5,500,000	0
1	願記冥加金	5,500,000	5,500,000	0
4	会費収入	6,290,000	5,490,000	800,000
1	会費収入	6,290,000	5,490,000	800,000
5	繰入金	9,010,000	6,010,000	3,000,000
1	繰入金	9,010,000	6,010,000	3,000,000
6	雑収入	1,647,000	1,791,000	△144,000
1	雑収入	1,647,000	1,791,000	△144,000
7	繰越金	1,500,000	1,300,000	200,000
1	繰越金	1,500,000	1,300,000	200,000
歳入合計		121,560,000	124,400,000	△2,840,000

[歳出]

款項	費目	23年度予算額	22年度予算額	対比(△減)
1	教化事業費	41,773,000	45,063,000	△3,290,000
1	基幹運動推進費	41,673,000	44,963,000	△3,290,000
2	基本計画推進費	100,000	100,000	0
2	組教化助成費	3,360,000	3,360,000	0
1	組教化助成費	3,360,000	3,360,000	0
3	会議費	3,350,000	2,910,000	440,000
1	会議費	3,350,000	2,910,000	440,000
4	宗会選挙費	50,000	50,000	0
1	宗会選挙費	50,000	50,000	0
5	教務所費	67,875,000	68,275,000	△400,000
1	職員費	61,885,000	62,535,000	△650,000
2	事務所費	4,990,000	4,940,000	50,000
3	維持管理費	1,000,000	800,000	200,000
6	災害対策費	2,350,000	2,350,000	0
1	災害対策費	2,350,000	2,350,000	0
7	回金	500,000	500,000	0
1	回金	500,000	500,000	0
8	予備費	2,302,000	1,892,000	410,000
1	予備費	2,302,000	1,892,000	410,000
歳出合計		121,560,000	124,400,000	△2,840,000

定期教区会の財務上程議案が審議され一般会計の二十三年度予算等が審議され承認を得たが、教区・別院大遠忌長期計画推進費についての疑義が

出され継続審議となった。質問のおもな内容としては、諸般の事情はいくらかあったとしても、神戸別院改革に伴う経費不足を目的が違う長期計画の

経費から、四千五百万円を回金して充当したことには違法ではないか。いくらか前年度予算が教区会で承認されたといえ教区大遠忌法要までに返済が出

来ず、次年度予算に一千八百万が持ち越されることは了解出来ない。答弁に立った教務所長は「弁解の余地はまったくありません。深くお詫

び申し上げます。また、現時点で長期計画推進費からの借財として、二十三年度に予算計上しました一千八百万につきま

ず決算教区会前の五月末までに責任をもって返済を完了いたす所存であります」との答弁で、次回に詳細の説明の上、継続審議となった。

現地視察を終えて

震災から一ヶ月になるが、復興作業はなかなか進んでいない。行方不明者の捜索がままないと撤去作業ができないからである。復興のスタートラインに立っていないという印象であった。

今後、私たちにできることは、色々あるように思える。



泥がかき出された専能寺門徒会館

仙台別院には、東北教区災害ボランティアセンターが設置されており、ボランティアや救済物資の受け入れをしている。

中でも、震災当初中心となった北海道の有志が、西本願寺災害ネットワークを組織して全国に呼びかけを行っている。

被災地の市では、ボランティアの受け入れが始まっており、また、阪神・淡路大震災の時も傾聴の重要性が言われたが、こ

の度の視察で、被災者の声、話を聞く、耳を傾けるということの必要性を痛感した。

これまで、教化団体やビハラー活動などで取り組んできた事を活かして協力していくことができるとは思えない。

また、現地に兵庫教区のボランティアセンターを設置し、教区としてボランティアや救済物資の受け入れをして活動する方法も考えられる。

移動時間や移動手段が問題となるので、マイクロボスなどで送迎するなどの対応も検討しなければならぬ。

最後に東北教区災害ボランティアセンターで、兵庫教区から一人の僧侶がボランティア活動をされていた。

「十六年前の震災を経験し、皆さんに助けていただいた。今度は自分がお手伝いさせていただく番だ。できるだけのことをしたい。ここを離れて帰る気持ちにはなれない」と語られていたことが深く印象に残った。

義援金・物資を送付

被災地視察に先立ち、三月十八日に教区災害対策委員会を開催し「東日本大震災」への義援金並びに救済物資・ボランティア活動等についての協議が行われた。

協議の結果、義援金については特別会計兵庫教区災害対策金庫より東北教区現地緊急災害対策本部へ二千万円、東京教区現地緊急災害対策本部へ五百万円を送金すること

が決定され、三月二十二日付けで送金が行われた。

また、救済物資については、阪神・神戸地域の寺院・門信徒の協力のもと、粉ミルク四百七十一缶、紙オムツ四百十袋を集め、三月十八日に、ポルトアイランドの運輸会社を通して被災地へ輸送された。ボランティア等、今後の支援体制については被災地の状況等を考慮して決定される。



集った救済物資の山(紙オムツと粉ミルク)

義援金受入れ口座

郵便振替口座 01140-9-6231

加入者名 兵庫教区教務所

※通信欄に「東日本大震災義援金」とご記入ください

東北教区災害ボランティアセンター

〒980-0824 仙台市青葉区支倉町1番27号

電話 022-227-2193

FAX 022-227-2193

E-mail:touhokukyoku@asokakids.com

原発事故の影響

福島原発で事故が多発したことで、近隣の浄土真宗本願寺派の寺院では、相馬組の十ヶ寺中、八ヶ寺が海岸側にあり、二ヶ寺が三十㎞圏内屋内退避、五ヶ寺が二十㎞圏内避難地域、飯館村にある二ヶ寺は放射線量の関係上、自主避難地域となっている。

地域の産業・地域住民の状況

地震、津波、原発事故の影響は、農業、漁業、畜産業(酪農・肉牛・鶏など)などのあらゆる地域産業に大打撃を与えた。今年の田植の準備をしようとしても、田畑の土壌検査を行い基準値以下の所ではか農業はできない。

漁業は、地震と津波で港と船を失い、原発の放射性物質による海洋汚染の問題があり再開のめどが立たない。

畜産業、酪農では、乳



牛舎から放たれた牛の群れ(飯館村)

牛の世話には欠かせないが、毎日絞って牛乳を捨てなければならぬ。また、長年大切に育ててきた肉牛は出荷ができない。これは、今年一年間の収入が無くなるということの意味している。

また、会社や地域産業も倒産や業務停止の状態にある。会社も社会保険料が支払えないため社員を解雇せざるを得ない状況で、解雇して失業保険で生活してもらって、もし半年後会社の業務が再開

できるようななら、改めて採用するという苦肉の策を打ち出すしかない状態である。

そして、それぞれの寺院の門信徒は、地域の市町村ごと他府県に避難されているため、避難された門信徒とお寺との連絡がとれない。

避難場所に安否確認に毎日のようにかけるが、折角居場所が分かった門信徒も様々な事情で移動されると全く連絡が取れない。

連絡が困難なのは、門信徒だけではない。お寺の住職も避難地域の方は、避難所を転々とされてきたため、携帯電話でしかつながっていない。避難された住職は、退避地域の場合、取り急ぎ避難したため法衣や仏具もない。また、避難地域の死者や行方不明者の捜索は、四月七日現在では、全く進んでいなかった。

捜索が進まない理由は、遺体が放射能に汚染されていると回収が出来なかったことに加え、放射能を除去しなければ遺体を処理できないからである。

三月十一日から四月七日までの南相馬市の死亡者が、三八七名から増えなかったのはそのためである。

実際に、四月九日には、防護服を身にまとった自衛隊と警察が捜索に入り一日で二十体の遺体を発見した。

これらの聴き取りの中で、本願寺から出されている被害状況の報告は、あくまで現在調査中のも



線量チェックを受ける教区職員

親鸞聖人七五〇回大遠忌について

相馬組としては、被災された寺院門信徒の方々の心情を察すると参拝は出来ない。東北から本山に行くには、一人あたり十万円ほどの参加費を預かってはいたが、全く収入が望めない時に、一ヶ月分の生活費にあたる金額であるので全額返金したいと考えている。

仕切り直して、復興の兆しが見え始めた時に、



安否を知らせる張り紙

しての筋道を通したい。何より今、どうされているのかを知りたいというのが願いである。

このままでは、町全体が、そして近所付き合いをしてきた方々や門信徒との付き合いが無くなってしまうという不安が住職方に共通する悩みである。

その上で、これまで法事などお参りはしてきたが、その家のお年寄りとの関係が中心で、携帯電話を使われないため、現

状では全く連絡がとれない。これからの寺院活動がどうなるのかと、不安を感じられていた。

そこで、相馬組の住職間で、コミュニティ再生の為にネットワークを作成し、門信徒と僧侶が、連絡を取り合うことができないかと模索している。

現在仏教会の協力を得て、寺院名、住職名、寺院の住所、電話番号、携帯電話の番号などの情報が書かれたプリントを作成して避難所に配ること

今後のアクション

仮に法要年が過ぎたとしても参拝したい。出来れば本山か東北教区で門主若しくは新門様に被災者のための法要を厳修してほしい、とのことだった。

最後に、聞き取り調査の会所である光善寺総代より「私達は、地震と津波、原発、農業（畜産業含む）、漁業そして風評という五重の被害にあっていることを知ってほしい」と語った。

門信徒が、塵散りに避難しているため連絡がとれない。

門信徒の中には、家族や身内、近隣の方が亡くなった場所に帰りがたくなるといふ人もいるが、仮に他府県に避難して、そこで住まれるようになったとしても、せめて、お寺を紹介するなど住職と



境内で瓦礫に埋まる聖人像(専能寺)

具体的な支援に向けて

今回の調査のために会場を貸していただいた光善寺の近くには、市役所とボランティアセンターがあり、その主な仕事内容は、救済物資の積み下ろし、炊き出し応援、介助補助、家（仮設住宅含む）の掃除片づけの手伝い、避難所の子どもの遊び相手、お年寄りの話し相手、一般住宅敷地の泥出しなどである。

これまで、教化団体やビハーラ活動などで取り

組んできた内容でもあり協力が可能ではないだろうか。

総合的な視点から、復興作業は、原発の事故が収まった後に、長期的な視野から取り組む必要がある。

状況が改善し、瓦礫などの撤去作業が、避難地域の指定を解除された後、すぐに取り掛かれるように準備しておくことが必要である。

行政と宗門の役割分担が重要だが、具体的な支援の内容を検討し長期的に取り組んで行く事が必要と思われる。

出しなども行っている。

【救済物資】集まった物資は本堂に十分にある。

【ボランティア宿泊の状況】寝具はマットと毛布があったが、衛生面において定期的な清掃が必要。

【その他】車が足りないため移動に困っている。また、人員に入れ替わりがあるが、現在三十名ほどが活動している。受け入れ態勢としては、七十名ぐらいいま

専能寺の現状

【宮城組専能寺】

死者五十名（現在把握人数）行方不明者数確認できない。

二百四十戸の門徒の家屋が全壊。海から二kmもあるのに、様々な方向から津波が襲った。本堂、庫裏、圍舎、墓地など全てが飲み込まれた。

津波による被害で、親鸞聖人像は変形して倒れ、鐘撞堂も倒壊。津波の高さは、二m五十cm近くに



ポウリング場は遺体安置所となった(名取市)

はできないか。若しくは、経費面での問題があるが、新聞に大きく掲載することができないか。また、ラジオ等で、この活動を知らせてもらえないかなど検討中とのことだった。

遺体・遺骨のアクション

次に、避難所生活をされている方から、遺骨を預かってほしいという要望があり、現在は、各寺院其々の対応であるが、十分とはいえないのが現

状態となっている。四月八日現在、アルプス電気と仙台空港ポウリング場遺体安置所になっているが、現地調査チームが、救援物資の配送の後、ご遺体の前で読経をさせていただいた。

また、遺体の損傷が著



庫裏には水位を表す線が残る

及んだことが、水位の跡から分かる。

鉄筋の庫裏二階に避難した前坊守と納骨堂に避難したが門徒は助かったが、本堂に避難した門徒は、水に飲み込まれなくなった。

このお寺は、海岸から二kmも離れているが、止めていた車は流され、送迎用のバスは墓地まで流されている。

墓地は自衛隊による遺体捜索が終わり次第、瓦礫の撤去に入れることになった。この一ヶ月間で、北海道教区のボランティアが

尽力して、本堂・庫裏内の泥はおおよそ取り除けたが、本堂周辺は瓦礫で覆われている。

現在住職は、毎日のように連絡があり、火葬場で臨終動行（仮葬儀）をしている。

その数はすでに五十件を超えている。また、ご門徒二百四十戸のほとんどが、全壊し連絡がとれていないという。